

NO. 1	議席番号	氏 名	質問事項・要旨及び答弁者
	6	新井田 昭 男	
<p>1. 災害用小型発電機・備品について</p> <p>平成23年東日本大震災での未曾有の津波被害が発生してから今日まで、台風並びに自然災害も含め、我が町の住民に対する安心安全を守るべく、行政防災体制に関する構築案を提案してきました。</p> <p>大自然の驚異には誰もが打ち克つことはできません。いつ起こり得るかわからない自然災害には、過去の災害をもとにその教訓を活かす行動が必要不可欠であり、いついかなる時でも、行政は住民の安心安全の確保に備える必要があると考えます。</p> <p>平成30年9月6日に北海道ではじめて観測された震度7の「北海道胆振東部地震」による大規模停電（ブラックアウト）の教訓から、我が町ではいち早く各町内会への災害用小型発電機の配備を行いました。防災備品も含めた行政対応について町長の見解を伺います。</p> <p>(1) 災害用発電機については、平成29年3月31日より設置され木古内中央公民館、札苅みらい館、泉沢生活改善センター、釜谷ゆうなぎ館に設置されています。各地区で設置後2か月以上が経過していますが、未だに取り扱いの説明がないのはなぜか。</p> <p>(2) 防災用備品としてペットボトル水、アルファ米、毛布等を配置していますが、ほとんどの施設では災害用の備品が施設の押し入れや物置に、町内会所有の物品等と一括保管されている状況と認識しています。特に、災害時に避難された住民の口に入る食料や飲料水は保管場所のあり方を行政主導で検討すべきと考えますが見解を伺います。</p>			町 長